

# 京大薬友会誌

2025  
~Vol. 77~

## 表紙

ChatGPTに薬学部のラボをイメージした画像を作ってもらいました。最初は出力が魔女のキッチンみたいだったり、青すぎたりだったので、何度も注文を変えて出力をして、最終的に出来上がったのがこの画像です。

## もくじ

会長挨拶  
人事異動と受賞  
退任挨拶  
就任挨拶・新講座紹介  
奨学金説明  
奨学金贈呈  
修士論文発表賞  
お店探訪

研究室紹介  
薬学の未来を考えるシンポジウム  
学位授与者  
最終講義案内  
SKOシンポジウム  
スポーツ大会報告  
会員便り  
新入生歓迎会

模擬患者募集案内  
寄付依頼と御礼  
部報  
生涯教育講演会開催予告  
編集後記

# 会長あいさつ

## 薬友会会長 竹本 佳司

薬友会会員の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

薬学研究科長・薬学部長として4年目を迎え、今年が最後の締め括りとなります。引き続きご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。薬友会誌第77号の発刊にあたり、薬友会会長としての挨拶を兼ねて大学および薬学研究科・薬学部の近況を報告いたします。

まず、大学全体の動向についてです。京都大学は、昨年度に引き続き「国際卓越研究大学」への申請を行いました。今回がラストチャンスであり、全国で8大学が名乗りを上げました。昨年度の経験を踏まえ、今回は25年後を見据えた教育・研究体制について全学的に議論を重ね、大胆なKPIを掲げることになりました。研究科としては、薬学の独自性をアピールできる創薬育薬研究と多様な社会で活躍できる学位取得者の育成を目指して、他部局との連携を図りながら、KPIに貢献できる比類ない教育研究体制の整備に努めてまいります。

薬学研究科に関しては、本年3月末をもって松崎勝巳教授（薬品機能解析学分野）が定年退職されました。3月8日に薬友会主催の最終講義が執り行われ、名誉教授をはじめ多くの卒業生にご参集いただき、盛大に開催することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。この3年間で4名の教授が退職されたことを契機に、研究分野の刷新と若手教員の増員を積極的に進め、教員構成を大幅に改善しました。特にこの1年で10名の若手教員が着任し、7月時点で若手教員比率41%、女性比率20%を達成しています。今後は、こうした若い力が本研究科の教育・研究活動に新たな潮流を生み出し、融合と革新に繋がることを期待しています。

さて京大薬友会に目を移しますと、昨年11月16日（土）に「第10回薬学の未来を考える京都シンポジウム」を開催しました。今回は初めて外部役員のお世話で「産業界から見た薬学の現在と未来」をテーマとして開催しました。卒業生による特別講演に加え、学生の発表会も企画され、学生と卒業生とが密に交流

する機会となりました。

第11回京都シンポジウムは11月1日（土）に開催予定です。同窓会や母校の見学を兼ねて、ぜひご参加ください。

これまで会員の皆様からのご寄付により、藤

多および沢井奨学金をはじめ多くの学生支援活動を実現してきました。昨年度は、本研究科で助教授を務められた故山岡清先生（博士19回、2023.9.25ご逝去）のご遺志により、ご家族からご寄付を賜りました。そこで故山岡先生の「学者を育てたい」との願いを実現するため、若手研究者の海外活動と国際交流を支援する目的で「山岡清・由美子若手研究者育成奨学金」を創設しました。また、シミックホールディングス代表取締役中村和男様（学部30回）のご支援により、新たな医薬品開発の加速と次世代の人材育成を目指した産学共同講座「バリューインキュベーション創薬学講座」を、2025年1月より薬学研究科に開設しております。それぞれの活動状況については本誌および薬学研究科のHPをご参照ください。

本誌には、大学の動向にとどまらず、教員や学生の教育・研究活動・受賞、各学年の同窓会情報なども掲載しています。この機会にご一読いただき、各期での同窓会活動や情報共有の場（求人情報も大歓迎）としてもご活用ください。

京大薬友会は、現役学生を含めた卒業生間の絆と交流を深め、皆様にとって親しみのある同窓会組織として今後も活動してまいります。

薬友会会員の皆様の今後のますますのご健勝とご活躍を、心よりお祈り申し上げます。



# 薬学研究科人事異動 2024.9.1 ~ 2025.9.1

## 【採用・昇任等】

職名	氏名	分野	発令年月日	備考
助教	SINGH, Vaibhav Pal	ケミカルバイオロジー（協力講座）	2024年10月1日	
講師	南條 毅	薬品分子化学	2024年11月1日	薬品分子化学 助教より
産学共同講座教員	秋山 英雄	産学共同講座：ナノバイオ医薬創成科学	2024年11月1日	
講師	秋葉 宏樹	創薬有機化学	2024年12月1日	バイオ医薬品化学 助教より
産学共同講座教員	大谷 泰三	バリューインキュベーター創薬学	2025年1月1日	
産学共同講座教員	鈴木 伸宏	バリューインキュベーター創薬学	2025年1月1日	
講師	Tom Macpherson	システムバイオロジー	2025年4月1日	大阪大学より
准教授	上地 浩之	組織形成動力学	2025年4月1日	東北大学より
准教授	柳川 正隆	生体機能解析学	2025年4月1日	東北大学より
助教	池田 拓慧	システムケモセラピー（制御分子学）	2025年4月1日	システムケモセラピー（制御分子学）特定研究員より
助教	戸谷 美夏	組織形成動力学	2025年4月1日	早稲田大学より
助教	二宮 小牧	組織形成動力学	2025年4月1日	東北大学より
助教	木瀬 亮治	生体機能解析学	2025年4月1日	東北大学より
助教	田中 陽一	システムバイオロジー	2025年5月1日	システムバイオロジー特定研究員より
教授	木村 寛之	疾患分子制御学（協力講座）	2025年6月1日	
助教	藤本 裕之	疾患分子制御学（協力講座）	2025年6月1日	
助教	堀江 正信	疾患分子制御学（協力講座）	2025年6月1日	
助教	ZHE Chengyuan	薬剤設計学	2025年6月16日	Hangkang Capital Management Ltd より
教授	天満 敬	生命量子分析学（協力講座）	2025年7月1日	
助教	真田 悠生	生命量子分析学（協力講座）	2025年7月1日	

## 【退職・配置換等】

職名	氏名	分野	発令年月日	備考
助教	河本 佑介	薬剤統計学	2024年9月30日	
助教	須藤 哲央	産学共同講座：ナノバイオ医薬創成科学	2024年10月31日	
産学共同講座教員	沖川 沙佑美	がん・幹細胞シグナル学（協力講座）	2025年2月28日	
助教	疋田 弘之	バイオインフォマティクス（協力講座）	2025年2月28日	
教授	大宮 寛久	精密有機合成化学（協力講座）	2025年3月31日	
教授	二木 史朗	生体機能（協力講座）	2025年3月31日	生物分子化学研究室（特任教授）へ
教授	松崎 勝巳	薬品機能解析学	2025年3月31日	
准教授	申 惠媛	生体情報制御学	2025年3月31日	
助教	高田 紘翠	代謝ゲノム薬学（協力講座）	2025年3月31日	
助教	三宅 崇仁	システムバイオロジー	2025年3月31日	関西学院大学へ
助教	倉永 建史	システムケモセラピー（制御分子学）	2025年4月15日	システムケモセラピー（制御分子学）特定研究員へ
准教授	瀧川 紘	薬品合成化学	2025年5月31日	金沢大学へ
助教	金尾 英佑	生体分子設計学	2025年6月1日	創薬プロテオミクスより
准教授	長尾 一哲	精密有機合成化学（協力講座）	2025年7月1日	工学研究科准教授へ

## 受賞歴 2024.10.1 ~ 2025.10.31

### 学部内受賞者

氏名	分野	受賞年月日	受賞名
長谷川 恵美	システムバイオロジー	2024年10月27日	第6回輝く女性研究者賞(ジュン アシダ賞)
三宅 崇仁	システムバイオロジー	2024年11月17日	日本時間生物学会学術奨励賞
黒田 悠介	薬品合成化学 / 創薬プロテオミクス	2025年1月17日	日本薬学会関西支部奨励賞
井上 飛鳥	生体機能解析学	2025年2月4日	第21回日本学士院学術奨励賞
井上 飛鳥	生体機能解析学	2025年2月4日	第21回日本学術振興会賞
掛谷 秀昭	システムケモセラピー・制御分子学	2025年3月26日	2025年度日本薬学会賞
三宅 崇仁	システムバイオロジー	2025年3月26日	日本薬学会奨励賞
中 寛史	薬品分子化学	2025年3月31日	Innovative Precious Metals Award (田中貴金属記念財団)
橋田 充	名誉教授	2025年春	瑞宝中綬章
井垣 達史	多細胞システム学	2025年5月20日	比較腫瘍学常陸宮賞
西田 朱里	代謝ゲノム薬学	2025年6月7日	内分泌学会 若手研究奨励賞(YIA)
有地 法人	創薬有機化学	2025年12月6日	有機合成化学研究企画賞(ダイセル研究企画賞)

# 退任あいさつ

## 前薬品機能解析学分野教授 松崎 勝巳



私は本年3月末をもちまして、無事定年退職いたしました。これもひとえに関係各位のお力添えのお陰とここに御礼申し上げます。1987年10月に薬品物理化学講座の助手に着任して以来約37年間、生体膜における動的分子間相互作用の解明と創薬への展開をキーワードに研究を行って

きました。具体的には1) 膜作動性抗菌性ペプチドの作用機構の解明、2) 神経細胞膜を介したアルツハイマーアミロイドβタンパク質の異常凝集・毒性発現機構の解明、3) 生細胞膜上での膜タンパク質の可視化解析、4) 膜タンパク質の構造形成原理の解明です。1) では、ペプチドの両親媒性ヘリックスと膜脂質が toroidal pore という新規構造体を形成した後、ペプチドが膜を透過するというメカニズムを発見し、The Shai-Matsuzaki-Huang model と名付けられました。2) では、糖脂質 GM1 ガングリオシドのクラスターとアミロイドβタンパク質が相互作用し、毒性型のアミロイド線維を形成することとその毒性発現機構を明らかにしました。3) では、コイルドコイル標識法を開発し、生細胞スペクトルイメージングにより膜タンパク質が何量体を形成しているかを非破壊的に計測する手法を確立しました。4) ではモデル膜貫通ヘリックスを用いて、アミノ酸配列と脂質組成がヘリックス相互作用に及ぼす影響を熱力学的に計測しました、また、膜タンパク質を安定に可溶化できる新規リン脂質誘導体も開発しました。これら一連の研究を通じて分かったことは、膜物性という一見地味なものが膜における分子間相互作用に決定的な役割を果たしているという事実でした。

一方、教育研究環境という観点で教員生活を振り返ってみますと、まさに激動の時代でした。学生時代、研究を自由に楽しんでおられる周りの先生方や高い志を持った先輩方に憧れ、大学に奉職しましたが、バブル到来による学生気質の変化、ネット出願に伴う就職

活動の長期化と学生の研究への取り組みの変化、大学院重点化による大学院生数の大幅増加、法人化に伴う運営費の減少と教員定員削減、6年制への移行、入試制度の多様化による入試業務の増大など、研究を楽しむ余裕が十分でない日々でした。競争的研究資金における間接経費制度の導入後は、お金を稼げる研究に重点が置かれ、それが教員評価指標にもなってきました。こうした国の方針に対しては、ノーベル賞受賞者を含む著名な先生方が繰り返し警鐘を鳴らしているのは周知の通りです。国策に盲従することなく、各人が見識を持って「自由の学風」を守る努力をすべきだと思います。

22年前の就任のご挨拶には、「厳しさこそ愛情と信じ」指導する旨を述べさせていただきましたが、昨今はそうした指導も難しくなってきました。しかし、最終講義に来てくれた卒業生は厳しい指導をしていた頃の人が多く、伝わるものがあつたのかも知れません。若い方々にはいろいろと大変な時代ですが、夢を持って進んで行ってほしいと切望します。

最後になりましたが、薬友会の皆様のますますのご健勝をお祈りいたします。



# 退任あいさつ

## 前生体機能化学分野教授 二木 史朗

2025年3月末をもって定年退職いたしました。

1997年11月に宇治キャンパスにある化学研究所生体機能設計化学研究領域（杉浦幸雄教授：薬学研究科の協力講座としては生体機能化学分野）の助教授として着任し、その後、2005年4月から同研究領域・研究分野を担当するかたちで、計27年あまりにわたり薬学研究科にお世話になりました。その間、薬学研究科の先生方をはじめ、本研究科出身の諸先輩・同窓の方々には研究・教育の様々な局面で多大なるご支援をいただきました。また、他大学出身の方も含め、個性と感性豊かな多くの学生たちとともに研究を進めることができました。厚く御礼申し上げます。

杉浦先生の後任として研究室を主宰することになったとき、まず考えたことは、どうすれば学生がついてくれるか、ということでした。色々悩みましたが、結局は、「自分が取り組んでいる研究を面白いと思ってもらえるか」なのではないかという考えに至りました。学生は自分で授業料を払って大学に来ているわけで、上から与えられたノルマをこなすだけでは面白くないはずです。一方、誰も自分の好きなことをしているときには、時間を忘れて夢中になりますし、楽しさを感じながら努力を積み重ね、より高い目標に向かって進もうとするのではと思います。そのためには、担当して貰う研究テーマをまず私自身が面白いと感じられるかということが大切であると同時に、その面白さを学生の人も含めた周囲の人に分かって貰うための努力が必要と考えました（実際にそれがどこまでできていたかは、甚だ心許ないところもあるのですが・・・）。

在任中は、主として細胞膜と相互作用するペプチドの機能設計に取り組みました。さまざまな経緯を経てこのテーマに至りましたが、単に設計したペプチドの生物活性を追うだけでなく、細胞側の応答にも目を向け、得られた結果をできるだけ化学の言葉で理解することを意識して研究を進めてきました。

私たちの体内に予め備わっている生理活性分子に関しては、細胞側に対応する受容体が存在し、リガンドと受容体の1：1の相互作用として理解できるケースが

多くあります。一方、人為的に設計したペプチドに対しては、細胞側に特異的な受容体が必ずしも用意されているとは限りません。たとえば、オリゴアルギニンは種々の細胞表面分子との相互作用によって細胞表面に吸着したり、細胞内に取り込まれたりします。多様な細胞内移行経路が候補として浮かび上がりますが、実際にどの経路が主になるかは、細胞を取り巻くペプチドの濃度や、相互作用する細胞分子の量、さらには細胞の生理的な応答によって変わって来ます。

複雑な相互作用・取り込み様式や生理的応答の違いから、実際に研究を担当した学生・スタッフの皆さんには悪戦苦闘の毎日であったと思います。思うような成果が得られず、悩んだ人も少なくなかったかと思えます。それでも、皆さんの地道な努力と丹念な観察の積み重ねにより、これまでなかった新しい知見がいくつも生まれ、国内外の多くの研究者にも大きな興味を持って貰えたことを、有り難く思っています。予期しない結果が大きなヒットに結びついたことで、私自身も研究の面白さを改めて学ぶことも出来ました。研究室を巣立っていった人たちが、それぞれの分野で活躍しているのを見るのも、大変嬉しいことです。

多くの発見とともに新たな問いが次々と生まれ、正直言って、「日暮れて道遠し」の感もあります。幸いなことに、退職後も薬学研究科の皆様のご理解とご厚情により、特任教授として研究科内にスペースをお借りして、今しばらく研究を続けることができました。与えられた機会を大切にしつつ、一つでも良い成果を残したいと思っております。

最後になりますが、在任中に賜りましたご厚意に改めて感謝いたしますとともに、皆様のご健勝とご多幸、そしてますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



# 新講座の紹介

2025年1月1日より、産学共同講座「バリューインキュベート創薬学」を設立させていただきましたシミックホールディングス株式会社の中村（統括）、大谷（特定准教授）、鈴木（特定准教授）です。同講座の設立目的は、京都大学薬学研究科に蓄積された基礎研究成果（シーズ）をシミックホールディングス株式会社の非臨床・臨床・事業開発などのノウハウと結びつけることで、革新的な医薬品開発を目指したトランスレーショナルサイエンスを推進することです。

具体的には、主にシーズのポテンシャル調査、非臨床・臨床開発の計画立案、外部資金獲得の支援などを実施する。こうした活動に若手教員や大学院生が参加する場を提供することで次世代薬剤開発を担う人材育成に貢献することに頑張らせて頂きます。さらに、5月1日から関連会社が日本医療研究開発機構（AMED）認定VCに採択されましたので、ノウハウだけでなく、包括的な支援ができると考えております。

中村は、三共株式会社（現・第一三共）で、高脂血症、家族性高コレステロール血症治療薬「メバロチン」の開発プロジェクトリーダーを務めました。メバロチンはスタチン系薬の先駆けとして世界中で広く使われ、「世界で最も売れた医薬品」の一つとして知られています。1992年にはシミックグループを創業し、日本初のCRO（医薬品開発業務受託機関）として、日本の医薬品開発を支える基盤を築きました。開発から製造、販売、マーケティングまでを一貫して支援する体制を整備し、多くの製薬会社の新薬開発に携わってきました。時代の変化や多様化するニーズを先取りしながら事業領域を広げ、現在では日本の新薬誕生の約8割に貢献しています。医療・ヘルスケア分野の課題解決にも積極的に取り組み、業界の発展に大きく寄与してきました。本講座では、シミックグループの豊富な経験と知見を活かし、基礎研究の実用化や新たな価値の創出を支援します。未来の創薬を担うみなさんと共に、医療の発展に貢献できることを楽しみにしています。

大谷は、シドニー大学理学部及びニューヨーク大学大学院理学部卒ですが、前職は京都大学産学官連携本部（現：成長戦略本部）の客員准教授で、京都大学の創薬シーズの海外展開をTLOと共に支援しておりました。な



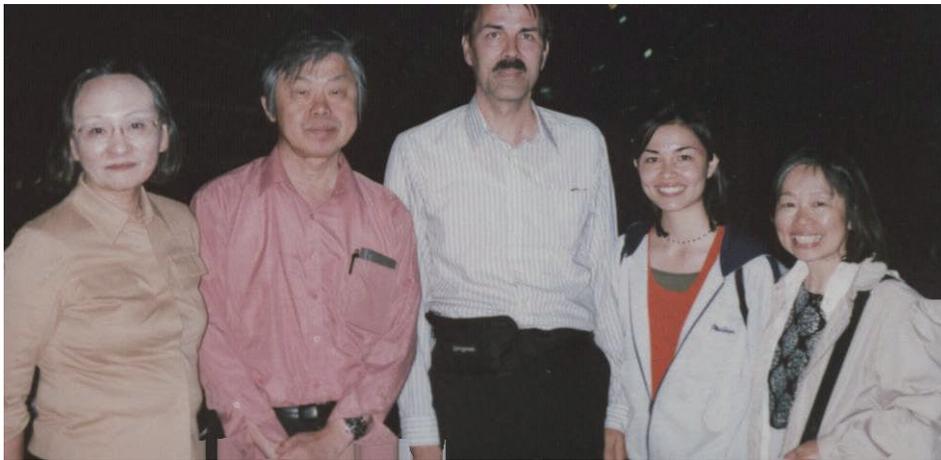
左から順に、鈴木伸宏特定准教授、シミックホールディングス株式会社代表取締役CEO 中村和男博士、大谷泰三特定准教授

で、個人的には古巣に戻った感があり、是非とも面白い創薬シーズがありましたら、協議させていただきたく存じます。

鈴木は、京都大学（理）修士課程を修了後、武田薬品工業（株）研究部門に34年間勤務し、その後シミックに入社して11年になります。その間、Aβ40/42の分別定量系の構築や低分子、中分子（ペプチド、核酸医薬）創薬を担当、さらに京都大学（医）と武田薬品の共同研究、TKプロジェクト等にも従事してまいりました。シミック入社後は、医薬品開発支援業務のサイエンス面の評価や高分子バイオアナリシスの技術的なアドバイスをを行っています。本講座では、これまでの低分子、中分子、高分子創薬の経験を活かし、創薬シーズの実用化を支援したいと考えております。

創薬研究や医療用医薬品市場についてご質問があれば、ぜひお気軽にお立ち寄りください。火曜・水曜は担当者が「バリューインキュベート創薬学室」（薬学研究科総合研究棟1階、鞠小路通り側の出口すぐ横）に常駐しています。みなさんと意見交換できることを心よりお待ちしております。

# 山岡清・由美子若手研究者育成奨学金の創設



左より、山岡由美子先生、山岡清先生、ロジャー・トーマス様、同ご息女様、トーマス美千子様（山岡清先生の実妹）

このたび、故・山岡清先生の実妹であるトーマス美千子様からのご寄付を基に、「山岡清・由美子若手研究者育成奨学金」を創設いたしました。本奨学金は、薬学の未来を担う若い世代を支援したいという、故・山岡清先生および故・山岡由美子先生のご遺志に基づくものであり、その理念を受け継いで実現されたものです。

故・山岡清先生（2023年9月ご逝去）は、薬物動態学の分野で世界的に高く評価される数々の功績を残された研究者です。クロマトグラフィーの流出曲線解析から着想を得て開発された「モーメント解析法」は、薬物動態モデルを仮定せずに動態パラメータを導出する革新的な手法として、現在も臨床薬物動態試験に広く用いられています。1978年に *Journal of Pharmacokinetics and Biopharmaceutics* に発表された同手法に関する論文は、1,400件を超える引用実績を持ち、国際的にも基盤的な研究として高く評価されています。さらに、非線形最小二乗法を応用した解析ソフトウェア「MULTI」の開発も実に大きなインパクトがあり、その関連論文は2,800件以上に引用されています。こうした業績により、山岡先生は1991年に日本薬学会奨励賞、2000年に日本薬物動態学会北川賞を受賞されました。先生の研究は、理論的厳密さと実用性を兼ね備え、薬物動態学の発展に多大な貢献を果たしました。

故・山岡由美子先生（2012年7月ご逝去）は、薬学教育の分野で先駆的な取り組みを重ねられた教育者・研究者でした。博士号取得後は神戸学院大学薬学部にて、ラマンおよび赤外分光法の研究に従事する傍ら、教育手法の革新にも注力されました。1980年代という早い時期から CAI（Computer Assisted Instruction）の可能性に着目し、視覚的理解を促進するデジタル教材の開発に取り組みられました。その成果は『新 CAI 論：コンピュータなんか知らないほう

がいい』（1988年）や『コンピュータを使った新しい教え方』（1991年）といった著書にも結実しています。さらに、六年制薬学教育の創設に向けて、コアカリキュラム作成や指導薬剤師養成ワークショップなどにおいて中心的な役割を果たされ、薬学教育の質的向上に多大な貢献をされました。

こうした両先生のご遺志を受け継ぎ設けられた本奨学金は、研究費の補助ではなく、薬学研究科に所属する若手研究者が、通常の研究活動の枠を越え、国際的な教育・研究の場や産業界、行政機関などにおいて実践的な経験を積むことを目的としています。対象は、一貫制博士課程の3年次以降、博士後期課程および四年制博士課程の在学生のほか、薬学研究科に所属する若手教員や日本学術振興会特別研究員を含みます。

支援の対象となる活動には、海外大学・研究機関での教育・研究、共同研究を目的とした留学、企業や公的機関での中長期インターンシップなど、学内外の環境を越えた多様な実践が含まれます。これらの経験を通じて、専門性の深化に加え、異文化理解、柔軟な思考、実践力、倫理的判断力、協働力、そして誠実なコミュニケーション能力といった、いわゆるジェネリックスキルの涵養が求められています。こうした力は、国際社会や多様な分野で信頼される薬学人材として活躍するための土台となるはずです。

本奨学金は、若手研究者が自らの専門性を見つめ直し、社会と接点を持ちながら視野を広げ、自立したキャリア形成に向けて挑戦することを支援する制度です。研究者としての成長にとどまらず、多様な進路を柔軟に切り拓く力を養うための機会として、この奨学金が活用されることを願っています。そしてそれが、薬学の未来を支える次世代人材の育成につながっていくことを心より期待しています。

# 第1回山岡奨学金

# 第4回沢井奨学金

# 第7回藤多仁生奨学金の贈呈式

前任学生委員 石濱 泰（生体分子計測学分野）

2025年6月30日、医薬系総合研究棟・講義室Aにて、沢井製薬株式会社取締役副会長澤井健造氏、ならびに竹本研究科長の同席のもと、沢井奨学金、藤多仁生奨学金ならびに山岡清・由美子若手研究者育成奨学金授与式を執り行いました。沢井奨学金は、本学部OBである澤井健造氏（学部平成5年卒、修士平成7年修了）のご寄付をもとに創設された奨学金であり、博士課程、博士後期課程の学生に対する薬学独自の給付型奨学金です。本年度の沢井奨学金の受領者は、以下の通りになります。

- ・殿村 明日香（博士後期課程1回生）
- ・仲丸 雄太（博士課程3回生）
- ・星 遥華（一貫制博士課程4回生）



（写真左より 山下教授、竹本研究科長、仲丸、殿村、星、澤井様、吉原様、石濱教授）

一方、藤多仁生奨学金は、博士課程、博士後期課程の学生（年間 60 万円）だけでなく、一昨年度から創発医薬科学専攻一貫制博士課程 2 回生にも給付を開始いたしました（年間 30 万円）。今回の藤多仁生奨学金の受領者は、以下の通りになります。

- ・大谷 鈴華（博士課程 2 回生）
- ・朱 逸馨（博士後期課程 1 回生）
- ・谷口 葵（一貫制博士課程 4 回生）
- ・長友 宏樹（博士後期課程 2 回生）
- ・平田 剛（博士課程 3 回生）
- ・LIANG JUNQI（博士後期課程 1 回生）
- ・佐川 達也（一貫制博士課程 2 回生）
- ・中山 史也（一貫制博士課程 2 回生）

- ・長谷川 拓真（一貫制博士課程 2 回生）
- ・柳澤 和希（一貫制博士課程 2 回生）



（写真左奥より 山下教授、柳澤、長谷川、中山、佐川  
写真左手前より 竹本研究科長、平田、長友、大谷、谷口、LIANG、朱、石濱教授）

また、山岡清・由美子若手研究者育成奨学金は、薬学分野の将来を担う学生および若手研究者が、国際的な教育・研究活動や産官学連携の実践的な経験を通じて、広い視野と専門性を兼ね備えた人材へと成長することを支援する目的で新たに創設されたものです。今回の奨学金の受領者は、以下の通りになります。

- ・谷口 葵（一貫制博士課程 4 回生）
- ・張 ルイ（博士後期課程 2 回生）
- ・長谷川 大輝（一貫制博士課程 4 回生）
- ・平田 剛（博士課程 3 回生）
- ・星 遥華（一貫制博士課程 4 回生）
- ・大鳥 祐矢（博士後期課程 1 回生）
- ・山野 真由（博士後期課程 2 回生）

贈呈式では、竹本研究科長および澤井氏の挨拶の後、研究現場でご活躍の沢井製薬・吉原氏から実際の研究活動に関するご紹介をしていただきました。その後、小職および山下副研究科長より、それぞれ藤多仁生奨学金および山岡清・由美子若手研究者育成奨学金の説明を行い、竹本研究科長からのべ 20 名の受領者（欠席者 1 名）に贈呈証を授与しました。最後に、記念撮影を行って閉会となりました。



(写真左より 山下教授、竹本研究科長、山野、大鳥、谷口、長谷川、平田、星、石濱教授)

「藤多仁生奨学金を受給して」  
薬剤設計学分野・博士課程3年・平田 剛



「沢井奨学金を受給して」  
数理治療薬学分野博士課程3年・仲丸 雄太



この度は、沢井奨学金によるご支援を賜ることとなり、心より感謝申し上げます。澤井健造様、沢井製薬株式会社様、そして本奨学金の設立・運営に携わる全ての皆様に、深く御礼申し上げます。私は、個別化医療に不可欠な母集団薬物動態解析の研究に取り組んでいます。この解析は、個人情報保護の制約から施設間のデータ共有が難しく、汎用性の高いモデル構築が課題でした。そこで「連合学習」に着目し、データを共有せず統合解析する新手法を開発しています。これが確立すれば、より多くの患者様へ最適な医療を届ける道が拓かれます。この研究は「なによりも患者さんのために」という貴社の理念と深く共鳴するものと確信しております。そのような貴社からこの度の栄誉を賜りましたこと、大変光栄に存じます。ご支援に深く感謝し、研究に専念できるこの機会を活かして、一日も早く成果を社会に還元できるよう精進してまいります。

この度は、藤多仁生奨学金によるご支援を賜ることとなり、藤多先生、ならびに本奨学金の運営関係者の皆様に心から御礼申し上げます。私は4回生の時、薬物の体内動態を制御し、治療効果を高めるドラッグデリバリーシステムに興味を持って研究室を選びました。日々の研究で仮説・検証を繰り返し小さな成功体験を積みながら、次はより大きく、分野の課題を発見し、それを解決する仮説を立て実証し、研究を一から完成させる能力をさらに向上させたいと考え、博士課程に進学しました。現在は次世代の治療薬として注目されている細胞を用いた治療における、体内動態制御に関する研究に取り組んでいます。物価が上がる中で経済的な不安がありましたが、本奨学金のご支援により、一層研究に集中できる機会を頂けたこと、重ねて感謝申し上げます。支援者の方々からの期待も込めて支援を頂いているという自覚を胸に、自分の研究をさらに進め、成果を挙げられるよう精進いたします。



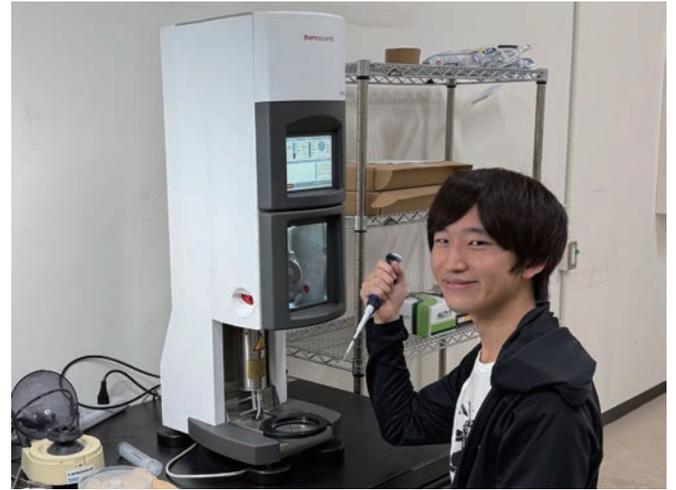
「山岡清・由美子 若手研究者育成奨学金を受給して」  
薬品機能解析学分野・一貫制博士課程4年・谷口 葵



この度は、山岡清・由美子若手研究者育成奨学金のご支援を賜り、山岡清先生、山岡由美子先生、そしてご支援くださった多くの方々へ心より感謝申し上げます。私は、抗菌性ペプチドという生理活性物質を基盤に、多種のがん細胞に対して抗がん活性を示す化合物の作製に取り組んでいます。このたびのご支援により、ソウルで開催されたSKOシンポジウムに参加する機会を得ることができました。現地では口頭発表を行い、活発なディスカッションを通じて、研究に対する新たな視点や刺激を得ることができました。また、学会後には、ソウル大学の方々と交流し、言語や文化の壁を越えて意見を交わす中で、韓国料理や文化についても教えていただき、非常に有意義な時間を過ごしました。今回のご支援を通じて、海外の研究者と直接交流し、互いの研究に触れながら理解を深め合い、研究者としての視野を広げるとともに、国際的な研究交流の楽しさと重要性を改めて実感いたしました。今後もこの経験を糧に、より一層研究に精進してまいります。このたびは誠にありがとうございました。



「山岡清・由美子 若手研究者育成奨学金を受給して」  
構造生物薬学分野・博士後期課程1年・大鳥 祐矢



この度は山岡清・由美子若手研究者育成奨学金によるご支援を賜ることとなり、感謝申し上げます。私の研究テーマは、心筋型リアノジン受容体 (RyR2) の立体構造解析であり、クライオ電子顕微鏡を用いた構造解析に取り組んでおります。今回、バルセロナで開催された Gordon Research Seminar (GRS) および Gordon Research Conference (GRC) に参加し、発表を行いました。幸運にも、GRC ではポスター賞を受賞することができました。さらに、ドイツの Max-Delbrück-Centrum für Molekulare Medizin および Max Planck Institute of Biophysics を訪問し、クライオ電子顕微鏡を用いた膜タンパク質構造解析に関する先端研究について意見交換を行いました。今回得られた知見と国際的なネットワークは今後の研究活動に大いに活かされると確信しております。



# 令和6年度京都大学薬学研究科 修士論文発表会優秀発表賞

令和7年3月24日に修士論文発表会優秀発表賞の授与式が執り行われました。



## 優秀発表賞 (4名)

- ・佐田 ひかり (薬品分子化学分野)
- ・大鳥 祐矢 (構造生物薬学分野)
- ・藤田 悠人 (システムバイオロジー)
- ・小島 湧斗 (薬理ゲノミクス分野)

## 優良発表賞 (4名)

- ・小山 愛 (システムケモセラピー)
- ・村松 邑香 (生体分子計測学分野)
- ・藤居 大樹 (生体情報制御学分野)
- ・山口 恵聖 (病態機能分析学分野)

受賞者には、賞状と副賞の図書カードが贈られました。以下に4名の優秀発表賞受賞者のコメントを抜粋して掲載します。全文は研究科サイトをご覧ください。

### 佐田 ひかり

「この度は、優秀発表賞にご選出頂き誠にありがとうございます。また、ご指導下さった先生方や支えてくれた竹本研のメンバーに心から感謝申し上げます。まだまだ未熟なところも多くありますが、本研究での経験を糧に博士課程ではより一層研究に励む所存です。この度は本当にありがとうございました。」

### 大鳥 祐矢

「この度はこのような賞をいただき誠にありがとうございます。今回の受賞に至ったのは、ひとえに加藤先生、小川先生、山口先生をはじめとする研究室のみなさまのおかげです。この場を借りて深く感謝申し上げます。今後は博士後期課程で研究を継続し、自立した研究者として成長できるよう日々研鑽を積んでまいりたいと思います。」

### 藤田 悠人

「この度は優秀発表賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。今回受賞できたのは、システムバイオロジー分野の土居先生、三宅先生、長谷川先生をはじめ、多くの方々のご指導とご支援のおかげです。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。」

### 小島 湧斗

「この度、優秀発表賞を賜り大変光栄に存じます。発表に際しては、自身の研究内容を十分に伝えきれなかったのではないかと反省しておりました。しかし、今回の受賞を通じて、伝わった部分もあったのかと自信を得ることができました。日頃よりご指導くださいました平澤先生、ならびに研究室の皆様にご心より感謝申し上げます。」



# ご飯屋さん探訪



訪問者  
編集委員一同！

百万遍に丸太町通り、非常に多くの学生を抱える京都大学の近くには多くのご飯屋さんが店を構えています。本企画ではそんなご飯屋さんの中から選りすぐられた現薬学部生の皆さんおすすめのお店を取材してきました！



## ①インド料理屋 CHANDER

涼しげな外観に癒されて、中に入ると陽気な店員さんが迎えてくれます。約50種(!)あるカレーの中からマトン(羊肉)カレーを注文。まずはサラダが到着し美味しいドレッシングに舌鼓を打つと、カレーとナンがやって来ました。大きなナンに、スパイスの効いたカレーがよく合う! あっという間に平らげてラッシーを頂き、お腹いっぱい。肝心の羊肉も全く臭みがなく美味しく食べられました。サラダにナンとカレー、ラッシーが付いて1030円(税込)! ぜひ、ご来店下さい。



## ②味美庵

2限目が30分ほど早く終わったので、並ばずに入れました。このおすすめポイントはなんととってもうどんの量が並、大、大大、すべて同じ値段というところ。まだまだ食べ盛りの大学生にとってはとてもうれしい価格設定です。今回自分は、ぶっかけおろしに野菜のかき揚げをつけて注文しました。うどんにはコシがあり、だしとおろしがさっぱりしていて、暑い日だったので、とてもおいしく感じました。

## ③ヒヤント

12時をすぎte行くと、店の前には4,5人すでに並んでいましたが、思ったより待たずに中に入りました。今回私は、ベジタブルカツカレーの甘口を注文しました。甘口と言っても、辛さは十分にあり、初めて訪れる方はまず甘口を注文することをお勧めします。ベジタブルカレーにはナスが入っており、これがとても夏らしくておいしかったです。カツはサクツとしていてぜひ食べてみてほしいです。



## ④キッチンくじら

京大病院脇の小道にひっそりと存在する定食屋さん。メニューは日替わりの一品のみのようで、この日は「アジフライとちく天とおばんざい5種」を頂きました。サクサクとした衣の下にふっくらとした白身が現れ、かすかな白身の甘みとソースのピリリとした刺激が良くマッチしている絶品です! おばんざいやお味噌汁も甘めの優しい味付けのものが多く、夏の暑さに疲れた体にその穏やかな甘みが染み渡ります。ご飯、主菜、副菜、お味噌汁と品数も豊富で食べ応えのある定食です。魅力的な日替わりメニューを通して、新たな食との出会いを探してみたいかがでしょうか?





Q. 研究内容について教えてください

A. 私たちの研究室では、病気の診断と治療を一連の医療行為として捉える「セラノスティクス」という新たな医療概念を研究の基盤としています。これは、診断と治療を分けて考えるのではなく、連続したプロセスとして捉える考え方です。この概念に基づき、放射線を用いた「PET/SPECT診断」と「標的アイソトープ治療」を融合させた「ラジオセラノスティクス」の視点から、新しい放射性薬品の開発に取り組んでいます。具体的には、アルツハイマー型認知症に対して、病態の解明に貢献し、超早期診断の実現が期待されるアミロイドベータ (A $\beta$ ) オリゴマーを標的とした放射性薬品の開発を進めています。また、 $\alpha$ 線やオージェ電子を放出する放射性薬品によるA $\beta$ の分解に関する研究も行っています。さらに、がんの診断・治療に向けた研究にも力を入れており、「標的認識ユニット」「放射線放出ユニット」に加えて「体内動態制御ユニット」を組み込んだ、三つのユニットから構成される次世代の放射性薬品の開発を進めています。このユニット構造により、従来の腎毒性などのリスクを低減しつつ、構成要素である化合物や放射性金属を柔軟に組み替えることで、様々ながん種に対応可能なラジオセラノスティクスの実現が期待されています。

Q. 研究室の強みはなんですか？

A. 薬の候補化合物を自ら設計・合成する実験から、マウスを用いた動物実験まで、一連の研究プロセスをひとつの研究室内で完結できる点は、当研究室ならではの大きな強みです。有機合成から生物評価までを包括的に実施できる環境は稀であり、学生にとっては幅広い知識と技術を体系的に身につける絶好の機会になると考えています。薬学部は「雑学部」とも呼ばれるほど多様な分野が交差する場ですが、当研究室はその特徴を特に色濃く体現していると感じています。また、自分がデザインした薬が、実際にヒトへの臨床応用にまで進む可能性があるという点も、薬学研究者として非常に魅力的です。

Q. 学部時代はどのような学生でしたか？

A. 正直なところ、学部時代に特別勉学に励んだという記憶はあまりありません。特定の学問に没頭することもなく、自由な京大生らしい日々を過ごしていたと思います。どこか物足りなさを感じる日常の中で、全国各地から集まった多様な価値観を持つ同級生との交流は、広島出身の私にとって非常に刺激的でした。そうした日々の中で、自然とコミュニケーション能力が育まれ、今でもその力がいろいろな場面で役立っていると感じています。学問的には不完全燃焼だった学部時代でしたが、その分蓄えられたエネルギーを、大学院時代には研究に全力で注ぐことができました。

Q. 学生へのメッセージをお願いします。

A. 自分の特性を知り、心から熱中できるものを見つけるために、ぜひ様々なことに挑戦してみてください。慣れたことや、簡単にこなせることばかりに取り組んでいては、大きな成長はなかなか望めません。もちろん、オーバーワークは避けるべきですが、日々、今の自分の能力よりも少しだけ高いハードルに挑むことが、成長には不可欠です。いわゆる「コンフォートゾーン(安心できる領域)」から一步踏み出すことを意識してみてください。慣れていないことにあえて取り組み、それを習慣化できているか。目標に向かって、小さなチャレンジを積み重ねられているか。そうした問いを、自分自身に投げかけながら、前向きに歩みを進めてほしいと思います。





### Q. 研究内容について教えてください

A. 反応開発、天然物合成、創薬という3本の柱で有機化学研究を行っています。反応開発では、連鎖的に進行する独自の反応を見出すことで、複雑な分子を合成することを目的としています。以前の創薬研究では、合成しやすい単純な分子が主に用いられておりましたが、現在は複雑な三次元骨格を持つ分子の研究が注目されていますので、創薬に役立ちそうな、面白い反応を見つけたいと思っています。最近では金触媒の反応に着目して研究しています。天然物合成では、生物活性天然物を容易に合成できる方法を開発し、様々な誘導体を合成できるようにすること、およびリード化合物を同定することを目指しています。創薬研究においては、低分子・中分子化合物や、抗体を用いた研究を行っています。低分子化合物は、生体高分子化合物に比べて生産するコストが低く、多くの患者さんを治療できる点で優位性があります。また、生産や管理の過程で扱いが容易となるので、発展途上国などでも流通させることができます。そのような意味で、有機化学の力によって、高い活性を持つ高分子化合物のうち、可能なものは少しでも低分子化したいと思っています。さらに、化合物ライブラリーや抗体を用いた研究、合成化合物を提供する共同研究を通じて、独自の創薬研究を行うことを目指しています。

### Q. 研究室の強みはなんですか？

A. 低分子から生体高分子まで色々な分子について勉強し、学生のうちから創薬のことを幅広く学べるところです。教員の専門分野も多岐に渡っているので、学生自身がやりたいと思ったことを広く実現しやすく、応用研究に発展させやすいという強みがあります。また、様々な分子を理解することは、高価な生体高分子を低分子化する研究にもつながります。もう一つは、「ものづくり」ができることです。薬学研究科に籍を置く研究室として、有機合成を創薬研究に結び付けることは大変重要と考えています。そのような意味でも、我々はその研究機関との共同研究も盛んに行っていますので、新しい化合物を創製しながら創薬研究に携われるところは、我々の研究室の強みであると思います。

### Q. なぜ先生はこの分野に進もうと思われたのですか？

A. 最初から一貫して有機化学の分野を目指していたというわけではないのですが、色々な経緯がありまして(笑)、最終的には好きだった有機化学の道に進むことになりました。そこで恩師である井深先生と出会い、有機化合物の面白さを教えてもらったんです。もともとは修士課程を出て製薬企業に行くつもりでしたが、ここで研究をさらに行いたいと考えて博士課程に進学し、色々なご縁があつて今ここにいます。

### Q. 学生へのメッセージをお願いします。

A. 一つは、京都大学の学生としての生活を充実させて欲しいと思います。京都大学は世界中から優秀な人が集まってくる場所です。京大という場を楽しみながら、そういった人たちと交流して大学生活を実りのあるものにして欲しいです。2つ目は、時間に余裕のある学部生のうちに勉強でも趣味など何でも良いので、何かに全力で取り組むことが大切だと思います。その活動の中で、上手くいったり失敗したりといった様々なことが起こるでしょう。そういった経験は、これからの激動の時代において、対応力を高めることに必ず役立ってくれます。3つ目は、簡単に流行に流されないように気をつけて欲しいです。今人気の分野だからということよりも、好きな分野や興味を持っている分野に進めば、多少つらいことがあったとしても乗り越えることができると思います。



## 神戸大学医学研究科 未来医学講座 中村 恵宣

令和6年11月16日(土)、秋晴れの清々しい空のもと、京都大学薬学研究科・藤多記念ホールにて、第10回「薬学の未来を考える京都シンポジウム—産業界から見た薬学の現在と未来—」が開催されました。

本シンポジウムは、京大薬友会と京都大学大学院薬学研究科ならびに教育支援機構の共催により実施され、学内外から133名(うち学部生18名、大学院生50名)の参加を得て、盛会のうちに幕を閉じました。

今回のテーマ「産業界から見た薬学の現在と未来」に即し、本学薬学部・薬学研究科の卒業生で、現在は内資・外資の製薬企業、創薬支援CRO、診断薬メーカーなどで活躍されている方々を講演者としてお迎えしました。開会に際し、京大薬友会外部役員代表である日本たばこ産業株式会社 医薬事業部 常任顧問・大川滋紀氏より、本シンポジウムの開催経緯と趣旨について心のこもったご挨拶をいただきました。続いて、神戸大学の西澤雅子特任教授および京都大学の野浩章教授の進行のもと、計4題の講演が行われました。さらに途中、星野大先生の進行により大学院生によるフラッシュプレゼンテーションおよびポスター発表が実施され、会場は若い世代の熱気に包まれながら、卒業生との活発な質疑が行われました。

以下に、講演内容をご紹介します。



### 井宗 康悦 先生

(塩野義製薬(株) 上席執行役員 創薬研究本部長)  
「今後の創薬研究の多様性と SHIONOGI の研究戦略」

井宗先生は、カルバペネム系抗生物質「ドリペネム」の開発で日本薬学会創薬科学賞を受賞されるなど研究者としての実績も豊富で、現在は塩野義製薬の創薬本部長として同社の研究を牽引されています。本講演では巷でよく聞く「創薬標的の枯渇」や「容易な創薬は既にやり尽くされた」といった見方に対し、「低分子創薬にはなお発展の余地がある」との力強い主張を展開。感染症領域での経験と新技術との融合によって、低分子創薬の再興が可能であると語られ、勇気づけられた創薬研究者も多かったものと思われま



### 和田 耕一 先生

(日本ベーリンガーインゲルハイム(株) 執行役員 神戸医薬研究所長)

「ベーリンガーインゲルハイムのイノベーション戦略」

ベーリンガーインゲルハイムの和田先生からは同社が実施している「We are Open Science」の理念のもと、opnMe や molecules to order といった独自プラットフォームを活用した知の協働を推進する取り組みをご紹介します。境界のない創薬エコシステムの構築を目指す同社のビジョンは、エコシステムが中々発展しない我が国の製薬業界関係者にとって大いに参考になる内容でした。



### 池浦 義典 先生

(アクセリード(株) Co-CEO 兼 CTO、Axcelead Drug Discovery Partners(株) 取締役会長)

「急速に進化する製薬業界と創薬の未来：アクセリードの挑戦」

武田薬品で長年創薬を牽引された池浦先生からは、豊富な実務経験を基に、日本の製薬産業の未来を見据えた鋭い提言を展開されました。講演では、R&Dの生産性向上、バイオベンチャー育成、産学官連携による創薬エコシステム構築など、理論と実践が融合した戦略が語られ、特に「日本発のグローバル創薬」の実現に向けた視点は、参加者の多くが深く共感できるものでした。





## 辻本 研二 先生

(シスメックス (株) 執行役員 次世代医療事業開発室長、AlliedCel (株) 代表取締役副社長)  
「診断業界から見たヘルスケアの未来展望—シスメックス社の事例を踏まえて—」

研究開発とビジネスの両面で豊富な経験と実績を有し、現在はシスメックス社において新事業創出に挑む辻本先生からは、「流行に流されず、自分の好き嫌いや肌感覚を信じること」「薬学は学際的でチャンスが多い分野」「悩みながら試行錯誤することで道が見えてくる」といった力強いメッセージが語られました。同社の将来を担い、重要な施策を推進する同氏の言葉に終始圧倒される内容でした。



ポスターセッションの様子  
シンポジウムの中休みには、薬学研究科の各研究室による最新の研究紹介として、ポスターセッションが行われました。会場は若い世代の熱気に包まれ、卒業生との活発な質疑応答が繰り広げられました。

講演会後は医薬系総合研究棟 1 階ホールにて懇親会が催され、世代や分野を越えた活発な交流ができました。

最後に、ご講演いただいた先生方およびご参加いただいた皆様に深く御礼を申し上げ、本レポートの締めくくりといたします。

## 第 11 回 薬学の未来を考える京都シンポジウム

### —創薬力強化に向けた未来戦略—

日時 令和 7 年 11 月 1 日 (土) 12:20 受付開始予定  
会場 京都大学大学院薬学研究科医療系総合研究棟 藤多記念ホール  
主催/共催 京大薬友会/京都大学大学院薬学研究科  
参加費 無料 (懇親会費 3,000 円 当日徴収)  
参加申し込みサイト <https://forms.gle/ZJpFWH4rXxP2cVXz7> (当日受付あり)  
(申込締切 10 月 27 日 (土))

参加申し込みサイト



12:45-12:55 薬友会総会  
13:00 開会の辞・趣旨説明  
13:05 「京都大学薬学研究科の創薬・人材育成の取組」 (薬学研究科教員)  
13:40 「創薬力強化と薬学教育」 (文部科学省・小林一隆様)  
14:15 「創薬、再生・細胞医療分野における我が国の産業戦略」 (経済産業省・西尾翔貴様)  
14:50 ~コーヒープレイク~  
15:05 「創薬イノベーションにおける薬事レギュレーションとアカデミア連携」 (日本医療研究開発機構・日下部哲也様)  
15:40 パネルディスカッション  
16:10 閉会の辞  
16:30 懇親会 (医薬系総合研究棟 1F アウトリーチエリアにて)

シンポジウム情報ページ



最新情報は随時薬友会ホームページへアップします。  
シンポジウム情報ページ <https://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/alumni-association/yakuyu/event/symposium/>

# 2024年度修士(薬科学)・博士(薬学)・博士(薬科学)学位授与者

修士(薬科学)	論文題目
LIANG JUNQI	Large-scale prediction of kinase-specific artificial substrate peptides (大規模キナーゼ特異的人工基質ペプチドの創出)
LI JIANHONG	肝特異的 Tric-b 遺伝子欠損マウスを用いた肝細胞内 Ca <sup>2+</sup> 動態とグリコーゲン代謝に関する研究
BIAN YUHAN	Mg23 欠損マウス骨格筋における速筋及び遅筋への影響
CONG HAOLUN	Effects of the cation channel TRPP2 on the differentiation and function of mouse macrophages (カチオンチャンネル TRPP2 がマウスマクロファージの分化と機能に及ぼす影響)
DONG YIDING	Doxorubicin(ドキシゾルビシン)による腹腔マクロファージの Ca <sup>2+</sup> ハンドリングと細胞機能の変容
齊藤 晃	ルイス酸 / 水素移動触媒共触媒系によるピリジンベンジル位のラジカル C-H アルキル化
朱 逸馨	The 3rd generation synthetic studies of cryptopleurine(クリプトプレウリンの第三代合成法の研究)
藤井 悠誠	基質選択的エポキシ化を可能とするイオン認識型樹脂触媒の創製
喜田 魁斗	ペプチド化合物の収束的合成を志向したエピ化フリー縮合法の開発
佐田 ひかり	ペプチド主鎖 N-クロロ化の位置選択性と反応機構に関する研究
林 逸軒	2-フルオロピリジニウム塩を用いた新規脱酸素型ラジカル反応の開発
櫻井 真央	無細胞合成系を用いた A 型インフルエンザウイルス M2 タンパク質の構造解析の試み
田中 敦士	アミロイドβタンパク質の線維形成および細胞毒性に及ぼす極性荷電アミノ酸の影響
細川 健太	曲率認識ペプチドによる細胞外小胞への簡便な薬物搭載および細胞内移行促進機能の付与
大鳥 祐矢	機能喪失型 RyR2 変異体の caffeine による活性賦活メカニズムの分子構造基盤の解明
小森 日菜子	Cryo-EM による C 型ナトリウム利尿ペプチド受容体の基質認識機構の解明
永尾 健人	動物細胞を用いた多剤排出トランスポーター ABCB1 の評価系構築
殿村 明日香	2'-O-アルキル化ヌクレオシドの合成
金 佳垠	インスリン様成長因子 (IGF-1) による成長板軟骨細胞内 Ca <sup>2+</sup> 自発変動の増強と骨伸長作用
MENG XINNAN	副甲状腺ホルモンによる成長板軟骨細胞内 Ca <sup>2+</sup> シグナル活性化と軟骨細胞分化制御
千葉 拓実	パラミクソウイルスによる糖鎖受容体認識の多様性解析
井原 紫乃	上皮のがん抑制型細胞競合の遠隔的制御機構の解析
平井 友梨	ショウジョウバエ消化管に存在する老化責任細胞の出現機構の解析
高橋 優利	Coordinated roles of transcription factors GLI1/GLI2/GLI3 in mesenchymal stem cell differentiation into osteoblasts (間葉系幹細胞の骨芽細胞への分化における転写因子 GLI1/GLI2/GLI3 の協調的役割)
藤居 大樹	Molecular basis of ciliopathies caused by mutations in TMEM218, a transition zone membrane protein (トランジション・ゾーン構成膜タンパク質 TMEM218 の変異に起因する繊毛病の分子基盤)
森 康平	Roles of the CEP164 homodimer and TTBK2 in recruitment of the IFT machinery to the mother centriole for ciliogenesis (繊毛形成のための IFT 装置の母中心小体へのリクルートにおける CEP164 のホモ二量体と TTBK2 の役割)
山崎 慎悟	ER-localized transmembrane protein TXNDC15 contributes to ciliary transition zone integrity (小胞体局在膜貫通タンパク質 TXNDC15 の繊毛トランジションゾーン構築における役割)
上畑 祐介	Melittin 由来の高活性細胞内送達ペプチドの送達機構の解明
笠原 千聖	抗体の高効率なサイトゾル送達に向けた抗体内封脂質ナノ粒子調製法の最適化
山崎 太輔	TDP-43 による液-液相分離の制御に向けた抗体の細胞内導入と機能解析
島田 美緒	ヒストンアセチル化修飾機構阻害薬が好中球機能に及ぼす影響
一ノ瀬 貴允	HER2 標的バイバロトピック抗体を基盤とした放射性薬剤の合成と評価
齋藤 晴香	アザキナゾリノン誘導体の構造活性相関によるグレリン受容体標的 PET イメージングプローブの開発
甚田 洸希	カテプシン B 結合性キレートリンカーを用いた細胞内滞留型がん標的放射性薬剤の合成と評価
山口 恵聖	新規アルブミンバインダーを用いた線維芽細胞活性化タンパク質標的放射性薬剤の開発
大寺 広翔	間葉系幹細胞由来細胞外小胞の細胞内動態とサイトカイン産生抑制の関係の解明
武村 美子	NFκB 活性化に着目した炎症性微小環境の検出のための基礎的検討
安江 和佳奈	ゼラチン微粒子を利用した細胞外小胞徐放化剤の開発
佐々木 涼	ソフトミスト吸入薬の肺内送達量に与える不適切な吸入手技の影響
赤松 幸真	二段階ペプチド可溶化法とナノスケール親水性相互作用クロマトグラフィー/タンデム質量分析に基づく高感度プロテオーム計測

# 2024年度修士（薬科学）・博士（薬学）・博士（薬科学）学位授与者

村松 邑香	マルチプロテアーゼ消化による残基分解能での構造プロテオミクス
榮川 理子	最終翻訳産物の同定に基づく非典型プロテオーム解析
小島 湧斗	脂肪酸受容体 GPR120 に対する新規アゴニストの開発と結合様式の解析
帯屋 直希	MAIT 細胞制御リガンド Ac-6-FP の構造活性相関研究
呉 舒涵	三重項ナイトレン前駆体としての N-アミノピリジニウムイリドの設計とスルホキシイミン合成への応用
島本 紀明	光酸化還元触媒を用いたジエン類のアジドスルホニル化を伴うラジカル環化反応
早川 翔琉	抗原上薬物合成を指向した抗体コンジュゲート分子創製に関する基盤研究
上原 日佳梨	Microbial Enzymatic Deactivation of Steroid Hormones(ステロイドホルモンの不活性化をもたらす微生物酵素活性の同定)
西村 怜緒	神経変性疾患関連遺伝子の脳神経細胞における mRNA 輸送制御メカニズム
藤田 悠人	ヒトの朝型と最も強く相関するミスセンス多型の逆遺伝学的機能証明
伊藤 春香	脱ユビキチン化酵素 USP47 による Skp2 の安定性制御に関する研究
加藤 徳朗	ノシヘプチドのヒトがん細胞に対する作用機序解析研究
児玉 開	がん幹細胞を標的としたアルテラミド類の発見と作用標的探索
小山 愛	ねじれ型アミドを介したペプチド合成法の開発と中分子環状ペプチド合成への応用
周防 大樹	新規放線菌代謝産物ストレプトスフェリン類の構造決定および全合成
西川 翔太	細胞膜上プロゲステロン受容体 mPR $\gamma$ を介した母胎連関による皮膚発達制御機構の解明

## 博士（薬科学）

## 論文題目

岩本 直也	Synthesis and Functional Characterization of Protein Domains for Development of Mirror-Image Therapeutics (鏡像分子からなる治療薬の開発に向けたタンパク質ドメインの合成と機能評価)
紀之内 颯	橋頭位に酸素官能基を有する多環性炭素四員環の位置選択的開裂を基盤とする反応開発
湯村 太一	ボロン酸と光触媒の協働作用を利用した不飽和カルボン酸類の新規分子変換法の開発
太田 健治	ラジカルの安定化効果を活用した複雑かつ嵩高い分子合成法の開発
佐々木 慈英	X-206 は SARS-CoV-2 変異株および薬剤耐性株を含む広範なベータコロナウイルスに対して強力な抗ウイルス活性を示す
石田 大和	Molecular basis of skeletal ciliopathies caused by mutations in intraflagellar transport complex subunits(繊毛内タンパク質輸送複合体サブユニットの変異が骨格系繊毛病を引き起こす分子基盤)
音成 兼光	配列選択的な RNA 修飾制御ツールの開発に関する研究
栗山 理志	バイオ高分子の細胞内取り込みに影響を与える細胞因子に関する研究
道端 惇也	膜傷害性ペプチド修飾多糖と抗体によるコアセルベート形成と抗体のサイトゾル送達
WU YOU	Design of antitumor drug delivery system using aptamer as a targeting ligand(アプタマーを標的リガンドとして用いた抗腫瘍薬送達システムの設計)
NGUYEN PHAM KHANH TIEN	Tissue-Endogenous Intracrine Steroid Hormone Deactivation Machinery in the Meibomian Gland(眼瞼マイボーム腺組織内因性イントラクラインホルモン不活性化機構の同定)
SHAO XINYAN	Translation-Mediated Regulatory Mechanisms Regulating Light- and Temperature-Dependent Circadian Gene Expression(転写を伴わない翻訳制御を介した光・温度による時計遺伝子発現調節機構)
西田 朱里	中鎖脂肪酸受容体 GPR84 を介した代謝調節機構の解明

## 博士（薬学）

## 論文題目

好田 匡志	抗うつ薬および慢性ストレスに対するセロトニン神経の報酬応答性変化に関する研究
戸堀 翔太	感覚機能の制御における末梢・中枢神経細胞 TRP チャンネルの役割に関する研究
増田 崇	蛋白尿を呈するがん患者における抗体医薬品ベバシズマブの体内動態変動に関する研究
大谷 知寛	Chronopharmacological manipulation of Ang II-regulatable cell autonomous oscillators in adrenal zona glomerulosa cells(副腎アルドステロン産生細胞におけるアンジオテンシン II 応答性時計振動体の時間薬理的制御)
田中 陽一	Regulation of daily rest timing via G-protein cAMP signaling in the brain central circadian clock(脳内中枢時計における G 蛋白質-cAMP シグナルを介した日内休息タイミング調節機構)

# 最終講義 ご案内

## 竹本佳司教授最終講義 ご案内

竹本佳司教授が、2026年3月31日をもって退職されます。竹本教授は、1983年3月に大阪大学薬学部をご卒業後、同大学院薬学研究科に進学され、1988年3月に博士後期課程を修了されました。1988年4月に渡米し、フロリダ州立大学においてタキソールの全合成研究に従事され、1989年4月からは(財)相模中央化学研究所にて博士研究員として研鑽を積まれました。1990年4月に大阪大学薬学部の助手として採用され、1998年2月より京都大学大学院薬学研究科において助教授を務められ、2000年4月に教授に昇任されました。以来25年にわたり薬品分子化学分野を主宰し、教育・研究の両面に貢献されました。

竹本教授は、グリーンケミストリーを志向した有機合成化学を専門とし、有機金属化学、不斉触媒化学、ペプチド化学、全合成研究に取り組まれてきました。なかでも、生体酵素を模倣し設計した二官能性チオ尿素触媒は、有機分子触媒分野において国際的に高く評価されており、これまでの発表された原著論文は約290報に及び、その研究業績に対し、Thomson Research Front Award (2007年)、日本薬学会賞 (2021年) など、数々の賞が授与されています。また教育・研究活動に加え、日本薬学会 CPB 編集長、日本薬学会理事、有機合成化学協会理事などを歴任され、専門学会の発展にも貢献されました。本学では、総長室特命補佐、

理事補(研究・産官学連携・評価)を担われ、加えて薬学部長・薬学研究科長として、教育・研究の推進と組織運営に尽力されています。

このたびのご退職にあたり、最終講義を下記のとおり開催いたしますので、ご参集くださいますようお願い申し上げます。

### 最終講義

題目：研究への情熱、触媒への夢  
ー共に学び、教え教えられー

日時：2026年3月19日(木) 13:30~15:00

場所：京都大学薬学研究科 医薬系総合研究棟 1階  
藤多記念ホール  
京阪電車神宮丸太町駅徒歩10分

竹本佳司教授 退職記念事業会

実行委員長 竹本 佳司

連絡先 中 寛史 (最終講義、茶話会)

南條 毅 (同窓会:同日夕刻に開催予定)

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町 46-29

京都大学大学院薬学研究科

電話：075-753-4532、075-753-4610

Email：h\_naka@pharm.kyoto-u.ac.jp,

tnanjo@pharm.kyoto-u.ac.jp

## 加藤博章教授最終講義 ご案内

加藤博章先生には、2026年3月31日をもって退職されることになりました。

先生は1983年3月山形大学農学部を卒業、1985年3月同農学研究科修士課程を修了、1985年4月より、京都大学大学院農学研究科博士後期課程に入学され、1988年11月に同課程を修了され京都大学農学博士を取得されておられます。同年5月京大化学研究所教務職員に就任され、1989年3月に助手へ昇任されました。1992年から1993年まで文部省の在外研究員として米国 Brandeis 大学へ留学されています。そして、帰国後、1994年度日本農芸化学会奨励賞を受賞されています。1999年10月に大型放射光施設 SPring-8 に併設された理化学研究所播磨研究所にチームリーダーとして移動され速度論的結晶学研究チームを立ち上げられました。2002年4

月に京都大学大学院薬学研究科に新設された構造生物薬学分野の教授に就任され、教育、研究の両面において多大な功績を残してこられました。

先生は構造生物学という言葉がまだ無かった時期に酵素反応速度論と有機化学を基盤とした酵素反応研究を X 線結晶学と分子生物学との融合を図り、時間分割 X 線結晶学という立体構造の時間変化を捉える研究を開始されました。さらにメカニズムの理解をもとに設計合成した遷移状態アナログの活用を得意とされ、生命科学における多くの謎を明らかにされてこられました。特に、ホタル発光色の制御メカニズム、植物ホルモン・ジベレリン受容体の認識メカニズム、ペルオキシソームへのタンパク質輸送メカニズムの構造基盤、そして、ABC 多剤排出トランスポーターメカニズムの立体構造基盤解明はつとに有名です。

さらに、2004 年薬学研究科に当時最先端の微小結晶用高輝度 X 線結晶解析設備を設置され、その活用と運営に尽力されました。

先生は教育研究に加えて、大学・学会運営においても大きな力を発揮されました。京都大学学際融合センター高大接続科学教育ユニット委員、京都大学評議員、国際高等教育院企画評価専門委員、そして、2020 年 4 月から 2022 年 3 月まで薬学研究科長・薬学部長として京都大学および学部・研究科の運営において大きな貢献をされ、学内初となる DEI 推進委員会の薬学研究科への設置、薬学系初の一貫制博士課程の設置に尽力されました。また、日本薬学会物理系薬学部会長や関西支部長として、薬学会の運営と発展にも尽力されました。

このたび先生のご退職にあたり、下記のように最終講義を開催いたしますので、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

最終講義

題目：蛋白質の形と仕組みの謎を追い求めて

日時：2026 年 3 月 7 日（土）13:30～15:00

場所：京都大学薬学研究科 医薬系総合研究棟 1 階  
藤多記念ホール  
京阪電車神宮丸太町駅徒歩 10 分

加藤博章教授 退職記念事業会

実行委員長 竹本 佳司

連絡先 小川 治夫

〒606-8501 京都府京都市左京区吉田下阿達町 46-29  
京都大学大学院薬学研究科

電話：075-753-4606 FAX：075-753-39272

Email：ogawa.haruo.2n@kyoto-u.ac.jp

## 竹島浩教授最終講義 ご案内

私、竹島浩は 2026 年 3 月 31 日をもって退職致します。私は 1983 年東京農工大学農学部を卒業し、1989 年京都大学医学研究科博士課程を修了後、京都大学医学部医化学講座助手に採用されました。その後、米国ロックフェラー大学や埼玉医科大学薬理学教室などでの研鑽を経て、1995 年東京大学医学部薬理学講座助教授に任用された後に、2000 年久留米大学分子生命科学研究所教授、2001 年東北大学医学部医化学講座教授、2006 年本学薬学研究科生体分子認識学分野教授と歴任してきました。当研究科においては基幹分野教員として、学部および大学院の教育、研究において微力ながら尽力してきました。

私は主に細胞内  $\text{Ca}^{2+}$  シグナルの発生機序やその生理的役割の究明を目的とした基礎研究に主に取り組んできました。具体的には、興奮性細胞の小胞体に分布する  $\text{Ca}^{2+}$  放出チャンネルであるリアノジン受容体の分子同定と機能解析を皮切りに、リアノジン受容体の生理的  $\text{Ca}^{2+}$  放出に必須となる結合膜構造の形成因子であるジャンクトフィリン、小胞体  $\text{Ca}^{2+}$  放出と同調して移動するカウンター  $\text{K}^{+}$  動態に寄与する TRIC チャンネル、骨格筋細胞の特殊な細胞膜形状の維持に不可欠な MG29 や MG53 などの分子同定と機能解析を手掛けてきました。国内外研究グループとともに各分子に関するユニークな共同研究を展開して、その成果を多数の

原著論文や総説として発表してきました。また、日本筋学会の設立、Gordon Research Conference: muscle E-C coupling や  $\text{Ca}^{2+}$  signaling の開催企画などの学術活動にも参画しました。さらに、教育面では学部の生物学入門講義コースを多年に渡り担当し、医歯薬系学部で採用されている新入生向けの学習教材「基礎生命科学（京都廣川書店）」を監修してきました。

このたび退職にあたり、下記のように最終講義とともに、講義終了後にはささやかな懇親会を予定しております。気の利いた講演内容は準備できませんが、ご興味のある方は御参加いただければ幸いです。

最終講義

日時：2026 年 3 月 14 日（土）16:00～

場所：京都大学薬学研究科本館 2 階薬学講堂  
懇親会：教育棟 1 階オープンスペース

連絡先 竹島 浩

京都大学大学院薬学研究科・生体分子認識学分野

電話：075-753-4572

Email：takeshim@pharm.kyoto-u.ac.jp

詳細は薬学部ホームページ

(<https://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/>)

に順次掲載予定です。



# 第12回SKOシンポジウム開催報告

## 生体分子計測学分野 石濱 泰

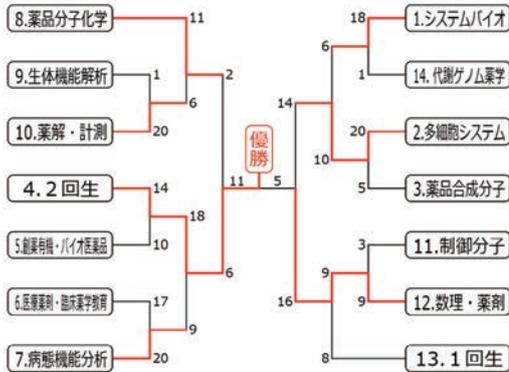
2024年11月18日、19日の2日間、ソウル国立大学薬学部にて開催された第12回SKOシンポジウムに大学院学生11名、引率教員3名で参加してきましたので、これについて報告いたします。SKOシンポジウムはソウル国立大、京都大、大阪大の薬学部により、2年に1回、持ち回りで開催しており、今回のもので12回目となります。コロナ禍により、2019年の京都での開催以降、しばらく見送られておりましたが、本年度5年ぶりの開催を目指し、夏以降3校で調整を続け、今回ようやく開催にまでこぎつけることができました。開催にあたって京都大学では大学院教育支援機構からのサポート（令和6年度機構SPRING「事業統括配分経費【研究科】（公募型）」（JST・次世代研究者挑戦的研究プログラム））を受け、一部学生の旅費に充てました。ソウル大の担当は Sang Hee Shim 教授（副研究科長）、大阪大は有澤光弘教授で、京都大学は石濱が窓口となり、この3名でプログラム編成も含め、準備を担当いたしました。発表者は博士課程学生もしくはポスドクとし、特にトピックは決めずに各校から約10名の発表者を募集しました。さらに、セッションごとに司会2名を各校発表者から選出し、当日の進行はすべて学生を中心に行う方針としました。宿泊は、ソウル大学のなかの宿泊施設（HOAM）を使うこととし、費用はソウル大学によってご負担いただけることになりました。学生はツインの相部屋とし、京大と阪大の学生が同部屋になるようにアレンジしました。当日は、朝11時に仁川空港に到着する便を各自で手配してもらい、HOAMに現地集合の形をとりました。午後4時より第1日目のプログラムが開始となりましたが、その前に、引率教員3名（高須教授、高橋准教授と石濱）でソウル大のKang薬学研究科長を表敬訪問し、研究科長室やFaculty member room、歴史博物室などを見せていただきました。立ったばかりの建物で、非常に設備の整った環境でありました。4時からのプログラムでは、まずは

冒頭にKang薬学研究科長の開会あいさつがあり、その後、京大を代表して石濱が祝辞を述べさせていただきました。プログラムは5つのセッションに分かれ、3校の発表がランダムになっておりました。12分の発表と3分の質疑という形で、セッション1から始まりましたが、司会も発表者もよく準備してきており、スムーズに進行しておりました。質疑も会場から積極的に質問が出て、特に教員が発現する場面は全くありませんでした。1日目の最後にはHOAMにてウェルカムレセプションが行われました。第2日も朝から熱心な発表討議が続き、お昼のお弁当タイムを挟んで17時半まで発表がありました。閉会のあいさつには、次回担当予定の大阪大学の有澤先生が「2年後は大阪で」と歓迎の言葉を述べられるとともに、今回いろいろとお世話になったソウル大の先生方に感謝の意を述べられました。その後、Farewell partyがソウル大の主催で市内の韓国焼き肉レストランで開催され、京大1、阪大1、ソウル大2で4人テーブルを囲んで、焼き肉に舌鼓を打ちました。かなり親睦が深まったグループは2次会にも出かけて行ったようですし、翌日にも帰国便までの時間にキャンパスを案内してもらったりしたようです。今回は、久しぶりの開催ということもあり、今までのいろいろなノウハウが失われてしまって開催前にはバタバタした部分もありましたが、ふたを開けてみると3校の学生が期待以上に積極的に参加してくれました。反省点としては、最初から学生代表を決めて、学生の実行委員会を作ればよかった、と思います。次回はぜひそのように行っていただければ幸いです。最後に、今回の参加者で撮った写真を載せておきます。「Fighting！」の掛け声で皆さん、楽しそうに映っています。関係者の皆様、どうもありがとうございました。





## ソフトボール



## ソフトボール優勝コメント

去年は2回戦で負けてしまったので、今年こそはいっぱい勝ってたくさん試合をしようと臨んだソフトボール大会、2回生チームはアルバイトや授業などが被ってしまい、人を集めるのが大変だった印象があります。ヒリヒリする乱打戦もあれば、少しも油断出来ない投手戦もあり、相手も味方もレベルが高くてびっくりしました。4回生からは研究室に配属されてバラバラのチームになってしまうと思うので、このチームで優勝出来たことが良かったと思います。用具の片付けや審判の手配など、研究室の先輩方がしてくださりととても助かったことが印象に残ってます。ソフトボールで対戦することで、相手の研究室の雰囲気とかが伝わってくるのが面白かったです。



## フットサル



## フットサル優勝コメント

この度は、フットサル大会に優勝することができ、とても嬉しく思っています。私たち1回生は、上回生の先輩方のチームに比べれば圧倒的にこれまでのコミュニケーションが少なく、チーム力という面では不安要素がありました。しかし、この大会を通じて1回生チーム全体がまとまっていき、みんなで勝ちにこだわって一致団結したことにとっても誇りを感じています。このチームでフットサル大会を一緒に盛り上げてくれたことに深く感謝申し上げます。最後に、このフットサル大会の企画や日程調整、スケジュールの作成にご尽力いただいた方々をはじめ、このフットサル大会にご参加いただいた皆さまに感謝申し上げます、優勝のコメントとしたいと思います。



## バレーボール



## バレーボール優勝コメント

去年は人数がギリギリだったのですが、今年は多くの方が集まることができました。試合ではみんなでボールを落とさずに繋ぐことができ楽しかったです。3段攻撃が決まった時の一体感がとても良かったです。経験者を主軸とした超攻撃的なバレーをすることが出来ました。その結果、優勝することができ、今年度のスポーツ大会は2冠を達成できました。来年度は実習が始まり忙しくなりますが、バレーボール大会優勝、そしてスポーツ大会3冠を目指します。特に、フットサル大会で実力の差を感じた1回生チームに勝ちたいです。ありがとうございました。





# 会員便り



## 【第 51 回卒業生（1986 年入学）同窓会】

2024 年 11 月 16 日（土）、レストラン「しらん」にて、総勢 37 名の参加により同窓会が開催されました。5 年ぶりの再会となり、前泊して参加される方もいました。近況報告では健康に関する話題も増えつつあり、懐かしい思い出話も尽きることなく、終始にぎやかなひとときとなりました。一次会の後は、上杉拠点長の案内で、iCeMS（物質-細胞統合システム拠点）

の施設見学を行い、続いて 20 名が「くれない」にて二次会に参加。トータル約 7 時間を共に過ごしながらも、話は尽きず、同級生ならではの絆の深さをあらためて実感する会となりました。次回の開催は 5 年後を予定しています。より多くの皆さまにお会いできることを、心より楽しみにしております。  
幹事（巾下、中川、中田） 文責（喜多）



## 【第 61 回卒業生（1996 年入学）同窓会】

2025 年 3 月 15 日（土）、ヴォヤージュドウルミエール京都七条迎賓館（旧グランヴェルジュ京都七条倶楽部）にて、第 61 回卒業生（1996 年入学）卒業 25 周年記念同窓会を開催しました。

開催までの準備ですが、前回のメールリストを利活用して、1 年近く前から連絡を再開しました。また、前回はなかった Line グループを作成し、また、LinkedIn のグループも「京大薬 61 期」として開設して連絡を取り合いました。また、ちょうど、卒業の 25 年後となる同じ 3 月 15 日が土曜日でしたので、この日を開催日と決めました。参加登録と近況メッセージの収集は、Google Form を作成して活用いたしました。コロナ禍を経て、様々な Web ツールが身近な存在となり、利活用することができるようになったのは、前回との大きな違いと感じました。会場となったヴォヤージュドウルミエール京都七条迎賓館は、建築から 100 年を超える趣きのある洋館で、登録有形文化財でもあります。

同窓会は 17:30 から開始で、当日は 30 名以上の方に参加いただきました。当日はあいにくの雨ではありましたが、多くの方が思い出の地である京都に集結してくださいました。また、海外から馳せ参じていただいた方もいらっしゃいました。前回は 15 周年での同窓会でしたので、10 年後に再び京都で会うという約束を果たすことができました。

同窓会は同期の浅木敏之さんの乾杯にはじまり、まず、ペアとなってお互いをそれぞれに紹介する他己紹介を行っていきま

した。参加者は皆、大学・研究機関、製薬・ベンチャー企業、薬局等の各方面で活躍されておられ、他己紹介のコメントも大変熱が入った個性豊かなものが多くありました。また歓談では、食事に舌鼓を打ちながら、旧交を温めました。その際、同期の中で薬学部在籍する白川久志さんが当時の卒業アルバムを持ってきて下さり、大学時代の様々な思い出話に花が咲きました。また、最後に樋口ゆり子さんが最近の薬学部の様子についてお話してくださいました。最後まで 25 年ぶりとなる時間を忘れる勢いで大変盛り上がりました。今回の同窓会をきっかけに、多くのご縁が繋がりましたことは、本当に幹事一同ありがたきことだと感じています。また 10 年後にお会いする目標をたてつつ、それまでもミニ同窓会を行っていきたくです。  
幹事（樋口、白川、松山） 文責（松山）



# 新入生歓迎会

4月7日(月)、京都大学の入学式当日、京大薬友会とDEI推進委員会の共催により「新入生歓迎茶話会」を開催しました。会場は医薬総合研究棟1階のアウトリーチエリアで、飲み物やスイーツがふるまわれました。今回は学部新入生に加え、大学院の新入生や留学生にも参加を呼びかけました。新入生ガイダンス終了後に関わらず、学部生・大学院生を合わせてほぼ全員が参加し、教員・TA・学生委員も加わって、総勢130名が一堂に会しました。



DEI推進委員長による挨拶と乾杯の後、会場は一気に賑わいを見せ、薬友会編集委員による活動紹介や新メンバーの勧誘も行われました。薬草園の梅ジュースや手淹れコーヒーも好評で、会場は笑顔と活気に満ちあふれ、初対面とは思えないほどの熱気に包まれました。新たな門出を迎えた新入生・留学生の皆さんの学生生活が、実り豊かなものとなることを、心より願っております。

## 模擬患者の募集案内

### 「模擬患者」になってみませんか？

「模擬患者」とは、医療系学生が医療面接や診察の練習を行う際に、患者役としてご協力いただく方です。設定されたシナリオに沿って実際の患者のようにふるまっただき、学生の実践的な学びを支えていただきます。登録および養成は京都大学大学院医学研究科医学教育・国際化推進センターが行っており、医学部だけでなく薬学部6年制課程の教育にもご協力いただいています。現在、模擬患者の登録者が不足しており、ご協力いただける方を募集しております。お近くにお住まいの薬友会員の方でご関心のある方は、ぜひ下記QRコードまたはホームページよりご連絡ください。

#### ▶ 模擬患者募集ページ

<https://cme.med.kyoto-u.ac.jp/education/simulated-patient/>

皆さまのご参加をお待ちしております。

統合薬学教育開発センター教授 山下 富義  
医学教育・国際化推進センター教授 片岡 仁美



# 京都大学教育研究基金への寄付のお礼

## 薬学研究科長・学部長 竹本佳司

令和2年10月以降、下記の通り、45件総額3,970,050円のご寄付をいただきました（2025年7月3日現在）。この場をお借りして御礼申し上げます。この寄付金は、勉学・研究に励む薬学部学生ならびに薬学研究科大学院生を支援するために使用させていただきます。引き続き、京都大学薬学教育研究基金へご寄付を賜れましたら幸甚に存じます。

<寄付者ご芳名（五十音順、敬称略）>

令和2年：川上啓子、他2名

令和3年：岩田恭宗、亀井枝里子、岸本成基、首藤英利、正田萬典、末吉貴子、瀧上幹朗、中島英之、原徹、横山巖、山内脩、他10名

令和4年：櫻井文教、首藤英利、滝和夫、出口雄也、山田久恵

令和5年：首藤英利、竹本順一、横山巖、他3名

令和6年：首藤英利、中島英之、横山巖、他5名

## 薬学教育研究基金

### —「創薬と医療」を支える国際的な人材を育成し、世界最高水準の教育研究拠点を形成—

薬学は、人類の健康と社会の発展に貢献する「医薬品」の創製、生産、適正な使用を目標とする総合科学です。

薬学研究科・薬学部では、薬学分野で顕著な研究成果を上げ、創薬関連の幅広い分野の研究者や先端医療を担う医療薬学研究者等の育成を通じて、「創」と「療」に関する世界最高水準の教育研究拠点の形成を目指しています。創薬研究や先端医療が急速に高度化かつグローバル化する現在、迅速に対応できる人材の育成は急務であり、本研究科・学部の責務は重要性を増しています。

本基金は、国立大学を支える財政など環境が厳しくなる状況においても、世界に伍して活躍できる人材を育成し、世界トップレベルの研究成果を創出し続けるべく、2016（平成28）年12月に設置しました。「創薬と医療」の国際的拠点にふさわしい人材育成と研究成果創出のための基盤形成に向け、教育環境（講義室や実験室などのインフラ）や研究設備・機器の整備、学生や若手研究者等の国際交流や研究の支援などに活用する予定です。

（※法人税法、所得税法による税制上の優遇措置（所得税控除・住民税控除・相続税控除など）が受けられます。）

## 基金の使途

- ▶教育支援：教育環境の整備や学生の国際交流活動等の支援による人材育成の基盤整備事業
- ▶研究支援：世界最高水準の研究活動を支える基盤整備事業、若手研究者の研究支援事業等
- ▶社会貢献：地域社会との連携推進事業、薬物の適正使用にかかる広報活動等による社会貢献事業

## 寄付の窓口

- ・薬学教育研究基金ホームページ  
<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/pharmaceutical/>
- ・京都大学基金事務局  
TEL：075-753-2210

# 部 報

## 2025 年 薬友会役員

会長	竹本 佳司	薬学部長	総務	喜多 知子	実践臨床薬学分野
			教養・会計	服部 明	システムケモセラピー・ 制御分子学分野
			雑誌	小川 治夫	構造生物薬学分野
副会長	加藤 博章	前薬学部長		中 寛史	薬品分子化学分野
			運動	中島 一磨	病態機能分析学分野

## 2024 年 会計報告・2025 年予算

収 入 (円)				支 出 (円)			
項目	2024 年予算	2024 年決算	2025 年予算	項目	2024 年予算	2024 年決算	2025 年予算
前年度繰越金	19,542,901	19,542,901	18,700,862	総務部	3,735,000	2,729,017	1,493,000
薬友会費	3,000,000	2,971,000	2,900,000	教養部	250,000	294,493	380,000
懇親会費	0	117,000	0	雑誌部	1,382,036	1,192,173	1,285,000
会誌広告料	445,000	340,000	445,000	運動部	88,000	63,430	65,000
寄付	0	0	0	次年度繰越金	17,532,865	18,700,862	18,822,862
雑収入	0	9,074	0	合計	22,987,901	22,979,975	22,045,862
合計	22,987,901	22,979,975	22,045,862				

## 薬友会誌アーカイブ

【53-76号】パスワード保護 パスワード「yakarc」  
<https://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/students-alumni/alumni/yakuyu/archive/>

【77号（今号）】からオープンになります！  
<https://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/students-alumni/alumni/yakuyu/archive77>

【53-76号】



【77号（今号）】



～ 現住所などに変更のあった方 ～

下記いずれかの方法で、薬友会事務局までご連絡ください。

【連絡方法】

- WEBサイト利用 URL <https://forms.gle/5UwfCqboiJe6SfSx8>
- E-mail利用 E-Mail [yakuyu@pharm.kyoto-u.ac.jp](mailto:yakuyu@pharm.kyoto-u.ac.jp)
- FAX利用 FAX NO. 075-753-4589



会員情報変更 WEB サイト

## 2026年 秋

### 「第17回 生涯教育講演会」東京にて開催予定!!

詳細は確定次第、薬友会ホームページにて公開します。



<https://www.pharm.kyoto-u.ac.jp/alumni-association/yakuyu/event/shogai/>

# 編集後記



## メンバー紹介

### ・川本 歩乃加 (1回生)

何度か締切に間に合わない夢を見ました。しかし、  
現実には勿論そんなことはなく、先生や先輩方の助けにより無事完成できま  
したのでようやく快眠できますヒャッハウ！ (味美庵のあんかけにチャレンジしたい)

### ・齊藤 千晶 (1回生)

Illustrator がクラッシュしてデータ紛失したり、ファイル保存に失敗したりと色々ありまし  
たがなんとか脱稿できてよかったです！！しばらくパソコンを開けたくない……。  
(いつか日替わりメニューを全部制覇してみたい)

### ・冨永 隼人 (1回生)

自分のせいで同期や上回生にたくさんの迷惑をかけて申し訳なかったです。それでも、締切  
りに間に合ってたよかったですと感えています。(自称 CHANDER×MASTER)

## GEN-SHO-HAKU

「玄(その道に熟達した玄人)となっても 尚白(素人)である」

お客様を末永くサポートするためには、私たち自身も現状に満足せず、  
自己研鑽を続けなければいけません。

創業者が社訓とした「玄尚白」の言葉を胸に、青山商事は、これからも、  
より専門的で、きめ細やかなサービスをご提供いたします。

### Products

#### 販売品目

販売品目・取扱  
メーカーの詳細は  
こちらから



- 分析機器
- 物性・評価・計測機器
- 観察機器
- 環境計測機器
- 実験設備・機器
- 研究用消耗品
- 各種受託分析試験・カスタマイズ製品
- 移設業務・その他

### 青山商事 株式会社



本 社 〒606-8354  
京都市左京区二条通新聞之町西入頭町 333  
TEL: 075-761-2161(代) FAX: 075-771-0190  
滋賀営業所 〒520-3047  
滋賀県栗東市手原 3丁目10-8  
TEL: 077-552-7601(代) FAX: 077-552-7761

### 株式会社 京都サイエンス

本 社 〒606-8354  
京都市左京区二条通新聞之町西入頭町 333  
TEL: 075-751-1101(代) FAX: 075-771-7675

[aoyama-syouji.jp](http://aoyama-syouji.jp)



# 玄尚白



SINCE 1954  
**AOYAMA**  
all about laboratory equipment



# 試薬を通じて社会貢献します

さまざまな分野の研究開発のニーズに  
スピーディーにお応えします



3万品目を超える品揃え  
1/3が独特の試薬  
即日出荷



- 有機合成試薬 ●材料科学研究用試薬
- ライフサイエンス研究用試薬 ●糖鎖研究用試薬 ●分析試薬

浅川 皓司 (相談役)

第21回卒業生 (新制第8回)

浅川 直幸 (代表取締役社長)

第43回新制大学院課程修了生

二階堂 誠理

第58回新制大学院課程修了生

西島 秀幸

第62回新制大学院課程修了生

東京化成工業株式会社

[www.TCIchemicals.com](http://www.TCIchemicals.com)

# 青山特許事務所

青山特許事務所は、あらゆる分野に精通した優秀な人材を多数配し、質・コスト等、あらゆる面において、知財財産権に関して最高水準のサービスを提供する専門家集団として、国内外のクライアントから厚い信頼を頂いております。

共同代表 田村 啓  
 共同代表 山尾 憲人  
 相談役 鮫島 睦  
 相談役 山田 卓二  
 東京オフィス所長 植村 昭三  
 所員数 約300名  
 (有資格者：弁理士 約100名)

## 業務内容

### 対象技術範囲

ビジネスモデル、機械、電気・電子、有機・無機化学、高分子化学、材料科学、バイオテクノロジー、医薬、メディカル、臨床診断技術、試薬、農薬、食品等を含むすべての技術分野

### 知的財産権関連業務

ライセンス契約、特許権譲受・譲渡契約、共同研究契約、共同開発契約など技術関連契約業務全般及びこれらに関するコンサルタント業務

### 対象知的財産権

日本並びに外国における特許、実用新案、意匠及び商標

### 実体業務内容

鑑定、調査、出願から権利取得および権利の維持・権利行使に致すすべての業務  
 登録異議、訂正審判、無効審判その他の審判業務及び訴訟等のすべての争訟業務並びにこれらの業務に関するコンサルタント業務

### 大阪オフィス

〒530-0017  
 大阪市北区角田町8番1号  
 大阪梅田ツインタワーズ・ノース  
 電話 06-6316-1261 FAX 06-6316-2241

### 東京オフィス

〒105-0001  
 東京都港区虎ノ門1丁目2番3号  
 虎ノ門清和ビル  
 電話 03-6478-8647 FAX 03-6478-8675

URL <http://www.aoyamapat.gr.jp/>  
 E-mail [info@aoyamapat.gr.jp](mailto:info@aoyamapat.gr.jp)



## 研究機器 オンライン 受託 オンライン

研究のニーズにお応えして、サポートします！



### 研究機器 オンライン

#### 特徴



キャンペーン・セミナー情報の確認も可能

研究用途に合わせた検索もラクラク!

比較表がさらにバージョンアップ  
性能キーワードで絞り込み可能

あのメーカーのフリーワード検索やメーカーの製品を絞り込み検索も可能!

### 受託 オンライン

#### 特徴



キャンペーン・セミナー情報の確認も可能

遺伝子発現解析や抗体作製から  
病理標本作製まで幅広い受託サービスを掲載!

研究用途から 遺伝子工学、シーケンス解析、  
受託サービス検索 タンパク質工学などのカテゴリー検索!

あのメーカーのフリーワード検索やメーカーの受託サービスを絞り込み検索も可能!

✓ 予算申請に便利!

✓ 指定範囲の金額で検索可能!

✓ 気になるワードで検索!

✓ 充実の製品情報は随時追加・更新!



和研薬株式会社  
 WAKENYAKU CO., LTD.

和研薬の 研究機器 オンライン 受託 オンライン は、  
 PC、スマートフォンやタブレット端末からアクセス!  
 WEBサイト随時更新中 /  
<https://www.wakenyaku.co.jp>



和研薬ホームページ



# 再生医療・細胞治療の研究開発に



## 特長

- シンプルな組成
- 静脈注射剤で実績のある成分から構成
- DMSOタイプ
- Xeno-Free製品
- ヒト造血幹細胞やヒト脂肪細胞由来幹細胞の凍結保存実績 (他の細胞株等の保存も可能)
- GMPに準拠した製造及び品質管理
- 無菌性を保証

# STEM-CELLBANKER<sup>®</sup> EX GMP grade

## ゼノジェンファーマ株式会社

福島県郡山市安積町笹川字平ノ上1-1  
TEL 024-947-8500(代表)

<https://www.zenogenpharma.com/>



がんと戦う人に  
新たな選択肢と、  
希望を。

がん免疫分野への挑戦。  
それは、がんと戦う人に  
新たな希望をもたらすために始まった。  
そしてこの先も、私たちは止まらない。  
次の希望をこの世に生み出す  
その日のために。

**BREAK  
THROUGH**

ONOは挑戦で、未来を変える

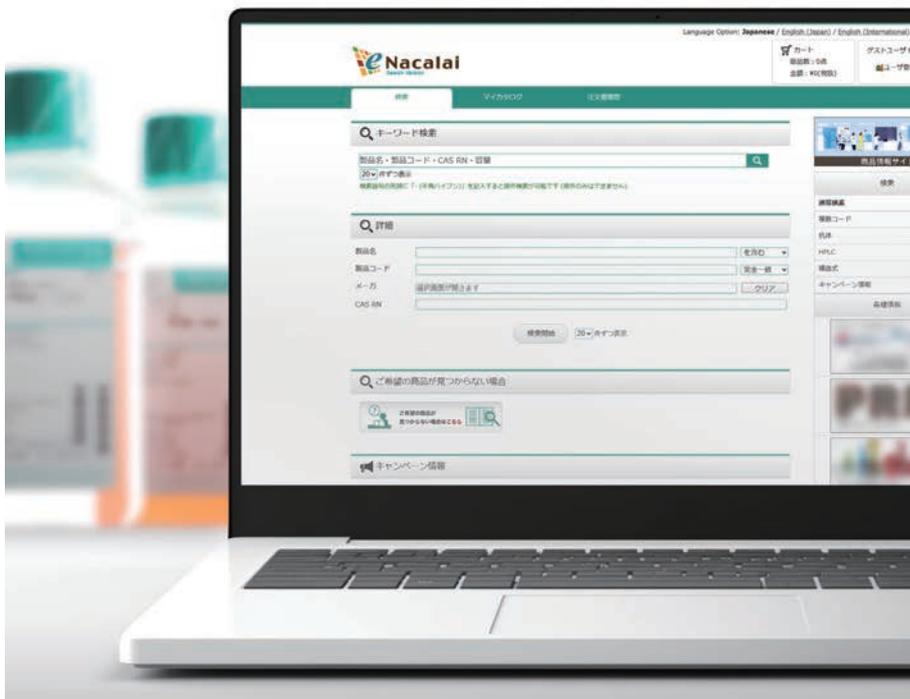
**ONO** 小野薬品工業株式会社

試薬探しには  
オンラインカタログ



e-nacalai

スマホからも！  
その場で  
カンタン  
試薬検索



ナカライテスク株式会社

〒604-0855 京都市中京区二条通烏丸西入東玉屋町498

お問い合わせ

価格・納期のご照会

0120-489-552

製品に関するご照会

URL: <https://www.e-nacalai.jp/URL/?P=Contact>  
TEL: 075-211-2703

## 学術雑誌は 紙から インターネットへ。

150年の経験と最新技術で、  
学会/学術誌の発展をサポートします。

### オンラインジャーナル

紙の雑誌に比べて投稿から掲載までが速い上に、ハイパーリンクで自由に必要な文献検索が可能なオンラインジャーナル。PubMed Central、J-STAGE などをはじめとするオンラインジャーナルへのデータ提供で数々の実績をあげています。

### 学会事務

学会事務局の事務委託から、年次総会や学術集会の主幹事務局などもお引き受けします。

### 書籍出版

中西印刷出版部「松香堂書店」として、自費出版から数学書、文学書などの学術出版まで幅広く手がけています。

中西印刷株式会社

〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入西大路町146

電話: 075-441-3155 / FAX: 075-417-2050

e-mail: [infos@nacos.com](mailto:infos@nacos.com) URL: <http://the.nacos.com>



# Together for a better healthcare journey

より良いヘルスケアジャーニーを、ともに。

シスメックスは、健康で長生きしたいという人々の普遍的な  
願いに寄り添いながら、テクノロジーとソリューションで、  
一人ひとりの生涯にわたるヘルスケアの旅路を見守り、支えています。

Healthcare  
journey  
movie

ヘルスケアジャーニーの  
ムービーをご覧ください。



シスメックス株式会社

神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号  
[www.sysmex.co.jp](http://www.sysmex.co.jp)



# Life forward

## かけがえのない日常のために

ベーリンガーインゲルハイムは、株式を公開しない独立した企業として、約140年にわたり人と動物の健康に取り組んできました。これまで多様な分野で培った経験やパートナーシップを生かし、未来を見据えて研究開発に注力しています。

詳細はこちらをご覧ください

[boehringer-ingenelheim.com/jp/](https://boehringer-ingenelheim.com/jp/)





## ヘルスケア分野の革新を目指し 挑戦を続けます

シミックグループは、人びとの「健康・幸福」に貢献するために  
ヘルスケア分野の革新を目指し、挑戦し続けています。  
シミックだからこそできる画期的なソリューションを通して、ヘルスケアに新たな  
価値を創造し、必要とされる医療やケアシステムを1日でも早く届けます。

**シミックグループ**

〒105-0023 東京都港区芝浦 1-1-1 浜松町ビルディング  
TEL : 03-6779-8000 (大代表)  
MAIL : [info@cmic.co.jp](mailto:info@cmic.co.jp) HP : [www.cmicgroup.com](http://www.cmicgroup.com)



2025年10月発刊

発行者 京大薬友会

〒606-8501 京都市左京区吉田下阿達町46-29 京都大学薬学部内

TEL & FAX : 075-753-4589

E-Mail : [yakuyu@pharm.kyoto-u.ac.jp](mailto:yakuyu@pharm.kyoto-u.ac.jp)

発行責任者 薬友会会長 竹本佳司

印刷 中西印刷株式会社